

日本中東学会ニューズレター

JAMES
NEWSLETTER



No.135
2014/4/21

目 次

第30回記念年次大会のお知らせ.....	2
第4回中東研究世界大会(WOCMES-4)への4パネル参加決定.....	6
アジア中東学会連合第10回大会、京都大学にて開催予定（2014年2月13-14日）、準備進む.....	8
中東研究世界大会にAFMAパネル採択される.....	9
日本中東学会年報AJAMES編集委員会報告.....	9
湯川武先生を追悼する —「大道」を歩んでいた人を亡くして—.....	10
寄贈図書.....	13
事務局より.....	15
編集後記.....	15

第30回記念年次大会のお知らせ

日本中東学会会員の皆様

第30回年次大会実行委員会から、年次大会開催前のお知らせをいたします。

第30回記念年次大会の開催が迫って参りました。3月末までに年次大会プログラムをお送りいたしました。数名の方の封書が、あて先不明として返送されてきております。プログラムが届いていない方は、是非、ご連絡ください。

会費支払の期限が2週間と短く、ご迷惑をおかけいたしました。ご協力、誠にありがとうございました。年次大会の基本的なプログラムを以下に掲載しておきます。なお詳細なプログラムと要旨を掲載した冊子は、当日、受付でお渡しいたします。

5月10日は11:30から、11日は08:30から、それぞれ1時間、東武東上線霞ヶ関駅南口に、プラカードをもった学生を配置いたします。大学の正門、校庭、6号館への道筋にも案内板を設置いたします。案内に従って、会場までいらしてください。駅からは徒歩5分です。

パソコンを使われない第1部会を除いて、第2部会から企画セッションまでの教室にはパソコンを設置しております。プロジェクターの設備も整っていますが、メモリーとパソコンの相性が悪いこともありますので、出来れば、ご自分のパソコンをお持ちになってください。また、発表時間前に余裕をみて、OA機器の調整もお願いいたします。

このお知らせの最後に、年次大会会場の6号館の間取りと、大学までの道順を掲載しております。1日目の公開講演会・シンポジウムは、6号館の1階を、2日目の研究発表と企画セッションは、2階を会場としています。

皆様のご参加をお待ちしております。

2014年4月16日

日本中東学会第30回年次大会実行委員会
委員長 宮治美江子

日本中東学会第 30 回年次大会プログラム

日本中東学会第 30 回年次大会日程

1. 開催場所：東京国際大学第 1 キャンパス 6 号館

(埼玉県川越市の場北 1-13-1)

(池袋駅より東武東上線急行で約 40 分、霞ヶ関駅南口下車徒歩 5 分)

2. 日程・時間

第 1 日目：2014 年 5 月 10 日（土曜日）公開講演会・シンポジウム

12:00 開場

13:00 開会挨拶：第 30 回年次大会実行委員長、宮治美江子

13:15-17:00 公開講演会・公開シンポジウム「日本中東学会 30 年の回顧と展望」

この 30 年間の中東地域の政治・経済的・文化的変容を考え、日本における中東地域研究の変化・発展を回顧するとともに、今後の新たな研究の展開へ向けて提言を行う。

13:15-13:55 基調講演：板垣雄三（東京大学及び東京経済大学名誉教授）

「学知の建て替えに向けて——日本中東学会に托された課題」

14:00-17:00 シンポジウム（発表：20 分×5 人、討論：40 分、フロア—20 分）

赤堀雅幸（上智大学）、私市正年（上智大学）、黒木英充（東京外国語大学）永田雄三（東洋文庫）、山岸智子（明治大学）

17:00-17:10 休憩

17:10-18:15 日本中東学会総会

18:30-20:30 懇親会(東京国際大学第 1 キャンパス 1 号館食堂)

開会挨拶：日本中東学会学会長、栗田禎子

歓迎の辞：東京国際大学理事長・総長、倉田信靖

来賓挨拶：KAMES

次期開催校挨拶：同志社大学

閉会挨拶：第 30 回年次大会実行委員長、宮治美江子

第 2 日目：2014 年 5 月 11 日（日曜日）

9：00-15：10 個人研究発表、

13：00-17：10 企画セッション

(詳細は、学会メーリングリストにて再度お知らせします)

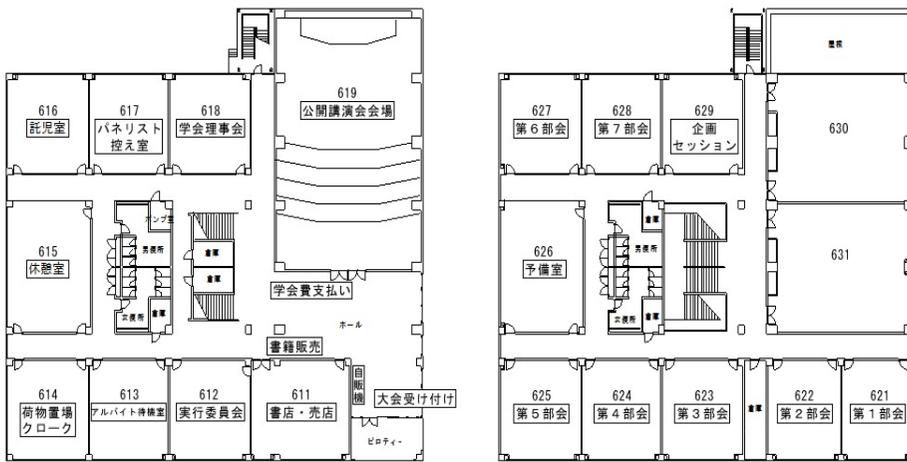
- ・全ての研究発表の場所は、東京国際大学第 1 キャンパス 6 号館 2 階です。
- ・6 号館の 1 階には、休憩室、荷物室（クローク）、書籍販売、学会本部、実行委員会本部、託児室、などを配置しています。
- ・プログラムでは、常勤職の方には所属機関名のみ、非常勤職の方には「非常勤」

- と入れました。学生会員には、名前の右上に#がついています。
 ・タイトルが英語表記のものは、英語による発表です。

連絡先

日本中東学会第 30 回年次大会実行委員会事務局
 東京国際大学第 1 キャンパス、国際交流研究所：iiet@tiu.ac.jp
 塩尻和子研究室：s-kazuko@tiu.ac.jp、塩尻の携帯：09093255116（緊急の際のみ）

東京国際大学第 1 キャンパス 6 号館 部会等配置図

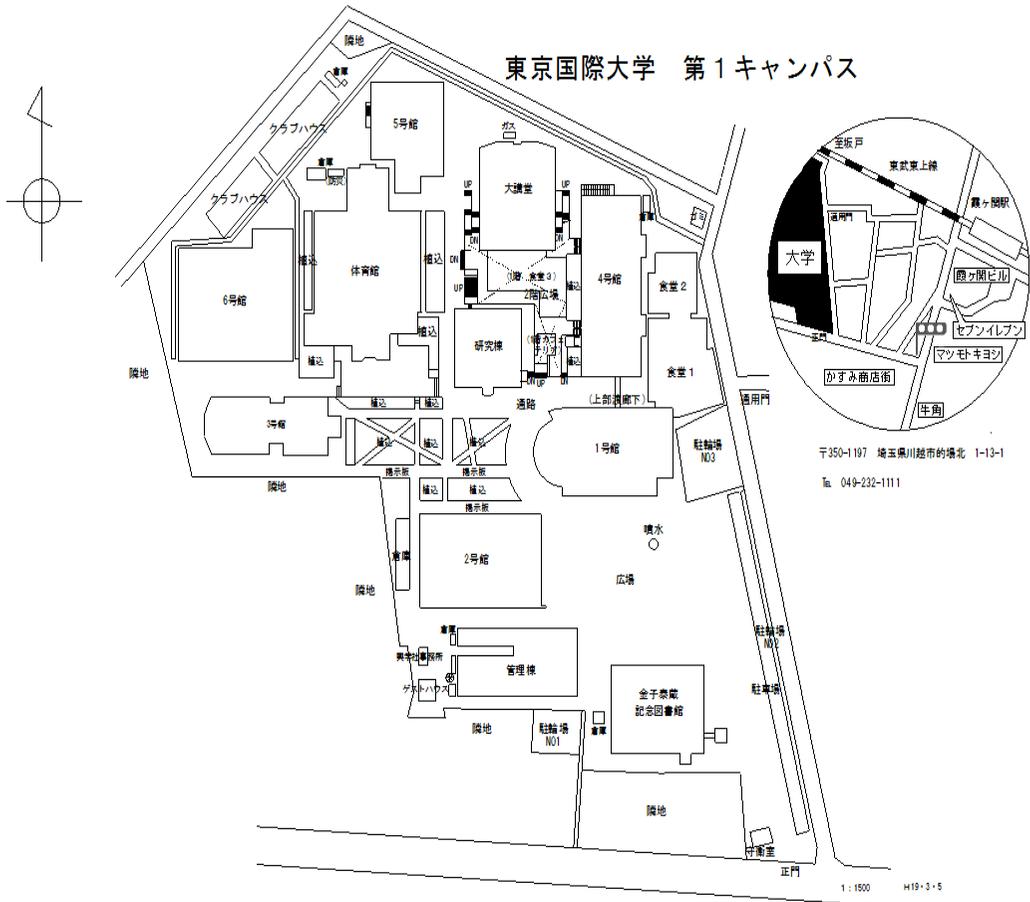


6号館1階平面図

6号館2階平面図

霞ヶ関駅から東京国際大学への道順

- ・霞ヶ関駅改札から南口へ階段を下ります。
- ・初日は11:30から、2日目は08:30から、それぞれ1時間、駅の階段下に、案内板を持った学生がおります。
- ・霞ヶ関ビルという看板の出ている古びた商店街に入り、くねくねと曲がった道を歩くと、セブンイレブンが見えてきます。
- ・反対側にマツモトキヨシがみえます。その前の横断歩道を渡り、交差点を右へまわります。
- ・そのまま、地図で「かすみ商店街」となっているところを、まっすぐに歩きますと、右側のパン屋を過ぎて、大学の正門が見えてきます。
- ・所要時間は徒歩5分です。



第4回中東研究世界大会(WOCMES-4)への4パネル参加決定

133号のニューズレターでお知らせしたとおり、2014年8月18-22日に中東工科大学（トルコ共和国アンカラ）で開催される第4回中東研究世界大会（The Fourth World Congress for Middle Eastern Studies: WOCMES-4）に、JAMES 派遣として4パネルを申請したところ、全てのパネルが受理されました。JAMES では、2002年マインツ（ドイツ）、2006年アンマン（ヨルダン）、2010年バルセロナ（スペイン）の過去3回のWOCMESにおいても、学会としてパネルを組んでおり、今回は4回目の参加となります。JAMES として採択されたパネルは、以下のとおりです。

JAMES パネル総合タイトル

Socio-Political Changes in the Middle East and the Muslim World: Re-examining the Present Situation and Future Prospects from Japanese Perspective

（中東・イスラーム世界における社会・政治変動の現状と未来—日本から考える）

第1パネル

Contentious Politics Approaches to MENA Conflicts and Institutional Change

司会：松永泰行（東京外国語大学）

1) ホサム・ダルヴィッシュ Housam Darwisheh（ジェトロ・アジア経済研究所）

“Socio-political origins of the coup against Muhammad Mursi: Intra-state conflicts and regime-protest movement dynamics”

2) 南部真喜子（東京外国語大大学院・博士後期課程院生Ph.D. Candidate）

“Cultural Articulation of Palestinian Identity: Its Formation and Contestation”

3) ハリール・ダフビ Khalil Dahbi（東京外国語大大学院・博士後期課程院生Ph.D. Candidate）

“Gradual Change, Significant Transformations: A Historical Institutionalist Account of the Evolution of Morocco’s Parliament and Political Parties”

4) モハメド・オマル・アブディン Mohamed Omar Abdin（東京外国語大大学院・博士後期課程院生日本学術振興会D2 Ph.D. Candidate）

“Damaging Impacts on Democracy: The Sudanese North-South Peace Process”

第2パネル<第1グループ>

Socio-Political Changes and Future Prospects in the Gulf I: From the Perspectives of Political Actor

司会/ディスカッサント：アブドゥッラー・バーブード Abdullah Baabood（カタール大学）

司会・責任者：辻上奈美江（東京大学）

1) クリスティアン・コーツ・ウリヒセン Kristian Coates Ulrichsen (ライス大学)
“Shifting Dynamics of Politics and Opposition in Kuwait”

2) 石黒大岳 (ジェトロ・アジア経済研究所)

“Experiment of Elections and Development of Parliamentary Politics in the Gulf”

3) 村上拓哉 (中東調査会)

“Non Ideological Demonstration in Oman: New Forms of Lobbying or Threat of Regime Change?”

第2パネル<第2グループ>

Socio-Political Changes and Future Prospects in the Gulf II: From the Perspectives of Class Ethnicity and Gender

司会：アブドゥッラー・バーブード

司会・責任者：辻上奈美江

ディスカッサント: クリスティアン・コーツ・ウリヒセン

1) 松尾昌樹 (宇都宮大学)

“Ethnocracy of the Arab Gulf States”

2) 掘抜功二 (日本エネルギー問題研究所)

“Social Security and Housing Policy in the UAE”

3) 辻上奈美江

“Changing Gender Policies and Legitimacy in the Gulf”

第3パネル

Religious Beliefs and Practices of Muslim Migrants in East and Southeast Asia

司会・責任者：小島宏 (早稲田大学)

1) 店田廣文 (早稲田大学)、岡井宏文 (早稲田大学)、村田久 (IPU・環太平洋大学)

“Religious Beliefs and Practices in Japan”

2) 李熙秀 Hee-Soo LEE (漢陽大学)

“Religious Beliefs and Practices of Muslim Migrants in Korea”

3) ニンファ・オヘナ Nimfa OGENA (フィリピン大学)

“Religious Practices of Male Muslim Migrants in Metro Manila”

4) アレー・ジャンパクレー Aree JAMPAKLAY (マヒドン大学)

“Muslim Immigrants in Bangkok, Thailand: Faith and Religious Practice”

5) 小島宏

“Halal Food Consumption among Muslim Migrants in Tokyo, Seoul and Taipei Metropolitan Areas”

第4パネル

The Vicissitudes of Sufi Movement in the Society: Past and the Present

司会・責任者：赤堀雅幸 (上智大学)

司会・責任者・ディスカッサント：東長 靖（京都大学アジア・アフリカ研究研究科）
ディスカッサント：アレクサンドル・パパス Alexandre PAPAS（フランス国立科学研究センター）

1) 遠藤春香（ロンドン大学 SOAS）

“The Theory of the Perfect Man according to Sha‘rani: Developing Ibn ‘Arabi’s Metaphysics into the Social Context”

2) 高橋 圭（東洋大学アジア文化研究所）

“National Control of Tariqas in the 19th Century Egypt and Sufi’s Endeavor for Modernization”

3) 丸山大介（日本学術振興会 PD 研究員）

“Sufi Movement in Contemporary Sudan and Their Relationship with the Government and Salafists”

4) 赤堀雅幸

“New Attempts for the Sufi Path in the Global World: Egyptian Sufis in US and Their Homeland”

なお、WOCMES-4 に関する重要な日程 http://www.wocmes2014.org/?p=important_dates に示されてありますので、関心のある方はご参照ください。

（国際交流担当 江川ひかり）

アジア中東学会連合第 10 回大会、京都大学にて開催予定

（2014 年 2 月 13-14 日）、準備進む

アジア中東学会連合(AFMA)は、設立から 19 年目を迎え、記念すべき第 10 回大会を日本中東学会が主催します。前回のニューズレターでお知らせしたように、日には 2014 年 12 月 13-14 日(土、日)、場所は京都大学で開催されます。

報告の募集は締切を当初予定から延長し、三月末時点で 30 件近く、全世界から応募がありました。

今後実行委員会で採択し、プログラムを作成していく予定です。(応募された方には、可否について連絡を差し上げます。)

なお、同大会には、科学研究費(研究成果公開)および京都大学教育研究振興財団(国際会議開催)の助成を得られることとなりました。有意義に活用し、実りある国際会議としていきたいと思っております。

（国際交流担当 酒井啓子）

中東研究世界大会に AFMA パネル採択される

8月、アンカラで開催される世界中東学会(WOCMES)に AFMA パネルとして Bridging Both Ends of the "East": Trans-Regional Socio-Economic Interactions in the Middle East and Asia が採択されました。日本中東学会からは、臼杵陽国際交流委員長が、中国中東学会の Chen Mo 氏、韓国中東学会の Joong Kwan Kim 氏とともに報告を行います。

(国際交流担当 酒井啓子)

日本中東学会年報 AJAMES 編集委員会報告

『日本中東学会年報 (AJAMES)』編集委員会よりご報告いたします。

1. 29-2 号刊行のお知らせ

すでにお手元に届いていることと思いますが、29-2 号が刊行されました。会員の方で冊子がお手元に届いていない方がおられましたら、事務局にご一報ください。

2. 30-1 号編集中

現在、30-1 号は昨年 12 月 1 日に投稿を締め切り、現在編集作業を進めております。2014 年 7 月の刊行予定です。

3. 投稿締切のお知らせ

次号 30-2 号の投稿締切は 6 月 1 日です。投稿を予定しているかたはお忘れないうようお願いいたします。なお、博士論文要旨はこの締切に関係なく、随時投稿することができます、博士論文を執筆されたかたはぜひ投稿をご検討ください。またお近くに博士論文を提出されたかたがいらっしゃれば、ぜひ投稿を促していただけるようお願いいたします。

なお、投稿先アドレスは ajames-editor@james1985.org に変更になっておりますので(当面のあいだ旧アドレスでも可能)、よろしく願います。

3. 欧文原稿投稿の呼びかけ

これまでたびたび総会などの場をお借りしてお願いして参りましたが、本誌は「欧文雑誌」として会員のみなさまの研究成果の普及をめざしております。論文、研究ノート、書評など、各種原稿の欧文による執筆および投稿をお待ちしています。そのほ

か、英文による特集の企画がありましたら、ぜひご投稿ください。

4. 本誌に関するお問い合わせ

本誌に関するお問い合わせ先、原稿投稿先は以下の通りです。

〒104-0054 東京都中央区勝どき 1-13-1 イヌイビル・カチドキ
一般財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター 保坂修司気付
『日本中東学会年報』編集委員会
ajames-editor@james1985.org

(『日本中東学会年報』編集委員長 保坂 修司)

湯川武先生を追悼する — 「大道」を歩んでいた人を亡くして¹—

“Alleluia. Come, enjoy rewards and crowns I have prepared for you! Alleluia.”²

2014年3月8日、湯川武先生が西東京市ひばりが丘の御自宅で肺がんのため亡くなった。享年72歳。慶應義塾大学に商学部教授、さらに常任理事として奉職され(1997年-2001年)、2007年3月に退任後は早稲田大学にイスラーム研究機構研究院教授として迎えられ、2012年3月まで奉職された。また本学会の理事など諸学会の要職も歴任された。その間の、また一部、御退職後にも継続していた研究・教育・大学行政の現場にあつての御活躍ぶりはあらためてここに記すまでもない。中東研究関係者の方々のみならず、他の分野でも慶應と早稲田内外の同僚の方々は、学問と実務両面で真に頼りになる人のまだ早い逝去を惜しんでおられるであろう。また筆者もその一人である慶應の湯川ゼミのOBとOGは、肉親に次ぐほどの大きな心の支えを失った思いさえ抱いているであろう。

先生には色々な立場の人が関わり、それぞれに先生像を描いていよう。私の先生像を描けば「大道」を歩んでいた人ということになる。なぜ「大道」なのか。それを先

¹ 本稿準備に際して、慶應の湯川ゼミ卒業生である大河原知樹氏(本学会会員、東北大学大学院准教授)及び杉山薫氏から資料の提供を受け、かつ貴重なお話をうかがい参考にさせて頂いた。記して感謝したい。また文章の校閲と細かい事実のチェックには、湯川院ゼミの受講者であった太田絵里奈氏(慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程)のお手を煩わせた。こちらも記して感謝したい。

² John Tavenor, “Song for Athene” の歌詞より。John Tavenor, CD album titled “Innocence” (Tokyo: Sony Classical, SK 66613)のブックレットから引用。ジョン・タヴナー (1944-2013) はイギリス出身の現代キリスト教宗教音楽を代表する作曲家の一人。「アテネのための歌 (Song for Athene)」はタヴナーが事故死した友人のために作曲した葬送歌。その歌詞は、同じブックレットのRichard Steinizの解説によればタヴナーがシェイクスピアの『ハムレット』と東方正教会の典礼テキストを引用し、自由に組み合わせたものだという。

生の人生の精神的背景とさらに長じて選ばれた学問の領域、そしてその後歩まれた生き方に見てみたい。

湯川先生は1941年8月28日に御誕生の後ほどなくして、御家族が帰依しておられるローマ・カトリック教会の洗礼を受けられ、最後までその信仰を守られた。洗礼名はパウロ。この教会は個人の信仰を重視するのは勿論であるが、信徒一人一人が「キリストの体」である教会＝共同体を作り上げ、信徒はこの教会共同体の導きを通して救済への道を歩むと教えている。

さらに先生は長じて進まれた学問の世界では様々な分野に御関心を寄せていたが、その学問の核にあったのはイスラームの伝統的知識人、ウラマーの中近世における教育制度と思想、そして政治思想の研究である。先生の広い分野への御関心の結実としてまず挙げられるのは Albert Hourani, *A History of the Arab Peoples* (London/Cambridge, Mass., 1991)の監訳(『アラブの人々の歴史』阿久津正幸編訳 [第三書館, 2003])であるが、教育制度史では『イスラーム社会の知の伝達』(山川出版社, 2009)、また政治思想史ではマーワルディー(972-1058)の『統治の諸規則』翻訳(慶應義塾大学出版会, 2006)をまずは学問上の円熟期の代表的な研究として指を屈すべきであろう。これらは皆、スンナ派ウラマーの教育制度やライフヒストリー、さらに政治思想に関わるものである。スンナ派イスラーム、正確にはその派は「伝統と共同体の人々」(ahl al-sunna wa-al-jamā'a)と呼ばれるが、つまりムスリムの9割近くが帰依し、歴史的には諸地域の慣行や以前の信仰も一部包含した、現実主義的でインクルーシヴな信仰である。それは中心的な単一の権威を有さず、合意 (ijmā') を法源の一つとし、学者たちの議論を積み重ねるといった法や教義を定めるための開放的システムを持つ。

先生は御自身の信仰であるローマ・カトリシズムについて深い愛情を抱かれたのは勿論であるが、同様にスンナ派イスラームに大きな愛着と共感を寄せておられ、飲み会の席で興が乗ると、二つの宗教共同体への熱い心情を吐露しておられた記憶がある。個人の信仰のみに偏せず、常に人を迎え入れるオープンな共同体を持つ宗教実践と思想に共感を抱いておられたのである。正しくローマ・カトリシズムとスンナ派イスラームのポジティブな点と美質が持ち前の明るく開放的な御性格と合致し、先生は信仰と専門の学問の精神を生きることが出来たのであろう。

以上に述べたことから、先生御自身は共同体のみならず、社会における個人の信仰や思想、さらには学問実践をも真価を問われねばならないとする思想を堅持しておられたと思われる。先生はよく学部と院のゼミ生に対し「社会性」という言葉を口にされていた。学問でも哲学でも宗教でも、「社会性」があるかないか、すなわち社会の中で公共性または普遍的通用性を持つか、知らないうちに自らの立場を弁護し独善性に陥っていないか、自らの自己実現の具と化していないかが問われねばならないということであろう。

「社会性」を重んじる先生は海外経験でも現地とか欧米という垣根を越える、広く世界に行動する学徒であった。すなわち、カイロ・アメリカン大学大学院で修士号を取得され、その後、プリンストン大学大学院博士課程で修学し、慶應に奉職後は一時、

外務省にも転じて(1984年-86年)、在エジプト大使館に専門調査員として勤務された。そこで見聞を広げ学問を深められたのは勿論、専門内外の学界の他に、商社マンや外交官の間に、また現地の市井の人々に人脈を大きく広げられた。

行動的な先生はさらに慶應と早稲田を始め多くの大学に出講されたが、そのキャリアの大半は慶應の日吉キャンパスに所属され、学部一、二年生のための総合教育の充実にも腐心されたことも忘れてはならない。その成果の一つが慶應義塾大学教養研究センターで「リベラル・アーツ教育のモデル構築」を目指し2003年から2005年に行われた実験授業をまとめた『アカデミック・スキルズ:大学生のための知的技法入門』(佐藤望編著、湯川武、横山千晶、近藤明彦共著 [慶應義塾大学出版会, 2006, 第2版2012])であろう。

慶應や早稲田の内外で先生は学生を愛し学生から愛され、今でも3月の末、桜の季節ともなれば、慶應東洋史の湯川ゼミ卒業生を中心にその配偶者や子供たち、友人たちなど50人程を小金井公園に集める「花見の会」が催される。今年の花見は初めて先生の御臨席なしに催されたが、例年以上の盛会で皆それぞれに再会とともに先生の思い出話を楽しんでいた。何か先生が皆を会わせて下さったようであり、筆者には歴史上の優れた精神的指導者——例えば孔子やソクラテス——の歿後、自然と弟子たちが集まり、その言行を集め始めた様子が自分なりに少し身近に感じさせた。

学生たちとの交流には酒がつきもので、先生と学生たちとの間の興味深く楽しいエピソードは数多く語り尽くせない。だがゼミは楽しいだけの集まりではないのは無論のことであり、卒業論文、修士論文の中間発表、また審査の折に先生の的確かつ厳しい講評に「青天の霹靂」に打たれた思い出を持つ卒業生も少なくないであろう。学問や酒以外では、大学の外で社会に不慣れな学生が窮地に陥ったときに先生の「うちの学生に何をやる！」の一喝に救われた例もあったと聞いている。酒席から学問まで、はては社会との関係に至るまで、全人的に学生の面倒を見る先生であった。先生のお陰で自分も一人前の人間になったと、各界に先生を育ての親として慕う人は数多いのである。

少し一個人としての側面を振り返れば、先生は慶應義塾大学の学生時代はアメリカンフットボールを始めとするスポーツに親しまれ、社会に出てからは少林寺拳法など武道で体を鍛えられた。また良き家庭人として二女一男のお子様をもうけられ、さらに八人のお孫様にも恵まれ、生涯の最後の日も御家族との食事を楽しまれた。そして学生を始めあらゆる立場の人々との交わりを愛し、自らが愛した信仰と学問の精神を体現した人生を歩まれた。まさに人生を味わい尽くし、その「大道」を歩まれ、人としての生きる道の一つを後進に示されたと言えないだろうか。その生涯は到底、このような小論でその一端とて語り尽くせるものではない。ただ(失礼に響くかもしれないが)酒と煙草をお供に「生き急いだ」感は否めず、これから豊富な社会的経験を基礎として、ウラマー論や、文明論を展開されたであろうと惜しまれてならない。天国で先生は先立たれた最愛の奥様との再会を果たし、御一緒に(奥様に怒られながらも?)お酒を楽しんでおられるのだろう。

あの世のことは想像し祈るばかりだが、確実に言えることは、先生はその生涯によってすでに、冒頭に掲げたジョン・タヴナー作曲の葬送歌にある、神が先生に用意した「褒賞」(rewards)と「栄冠」(crowns)を得られたということである。それはつまり先生がこの世に遺された学問と教育上の業績と、その人間への愛を慕う御家族、同僚の方々、そして門下生たちといった人々との交わりの謂いである。人との交わりの愛は受け継がれ、新たな学問と人生における出会いを生み、さらに未来にも受け継がれるであろう。(御葬儀の説教で司式司祭の方も指摘しておられたが) イスラームでもキリスト教でも死は新たな世界に向かう一つのステップであるが、先生の死ほどそれを強く感じさせたものはなかった。つまり死は「未来」へと開かれた生への一步を刻むのである。先生、長い間どうも有り難うございました。お疲れさまでした。しばらくゆっくりとお休み下さい、恐らくは「復活の日」まで。

野元 晋 (本学会会員、慶應義塾大学言語文化研究所教授)

寄贈図書

【単行本】

- 鹿島正裕『増補新版中東政治入門：アラブの春とその背景』第三書館、2013年。
- 高橋俊二『沙漠の半島：サウジアラビア紀行（歴史と風土を訪ねて）』日本サウディアラビア協会、2013年。
- 中東現代文学研究会編『中東現代文学選2012』(株)コームラ、2013年。
- 山本直輝『日本でイスラームの精髓を生きる－ナーブルスィーと共に』日本サウディアラビア協会、2013年。
- Agai, Bekim, Olcay Akyıldız, and Caspar Hillebrand, eds. *Venturing beyond borders - Reflections on genre, function and boundaries in Middle Eastern travel writing. (Istanbuler Texte und Studien 30)*. Würzburg: Ergon-Verlag GmbH, 2013.
- Arıncı, Bülent. *SAM Papers (No. 8, July 2013): Human Rights and the Transformation Process in Turkey*. The Center for Strategic Research of the Ministry of Foreign Affairs (SAM), Turkey, 2013.
- Davutoğlu, Ahmet. *Vision Papers (No.6, July 2013): Turkey's Mediation: Critical Reflections from the Field*. The Center for Strategic Research of the Ministry of Foreign Affairs (SAM), Turkey, 2013.
- Nakamura, Mitsuo. *The Crescent Arises over the Banyan Tree: A Study of the Muhammadiyah Movement in a Central Javanese Town, c.1910s-2010, 2nd Enlarged Edition*. Singapore: ISEAS Publishign, 2012.
- Yeşiltaş, Murat, and Ali Balcı. *SAM Papers (No.7, May 2013): A Dictionary of Turkish Foreign Policy in the AK Party Era: A Conceptual Map*. The Center for Strategic Research of the Ministry of Foreign Affairs (SAM), Turkey, 2013.

【逐次刊行物】

- 『アジア・アフリカ言語文化研究所要覧』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2013年。
- 『明日の東洋学：東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター報第30号』東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター、2013年。
- 『季刊アラブ』No. 146、日本アラブ協会、2013年。
- 『国立民族学博物館要覧2013』国立民族学博物館、2013年。
- 『総合研究大学院大学文化科学研究科地域文化学専攻比較文化学専攻要覧13』国立民族学博物館、2013年。
- 『東方学会報』No. 104、東方学会、2013年。
- 『日本クウェイト協会報』No.230 October 2013、日本クウェイト協会、2013年。
- 『日本サウディアラビア協会報』No.229 September 2013、日本サウディアラビア協会、2013年。
- 『dimensions international: サウジアラムコ季刊誌』サウジアラムコ、2013年春号。
- 『UTCMES ニュースレター』Vol.4, 東京大学大学院総合文化研究科グローバル地域研究機構中東地域研究センター、2013年。
- 『世界史の中のイスラーム：第13回日韓・韓日歴史家会議報告書』日韓歴史家会議組織委員会、2014年。
- Annual Report 2012*. The Center for Strategic Research of the Ministry of Foreign Affairs (SAM), Turkey, 2013.
- Awraq: Revista de análisis y pensamiento sobre el mundo árabe e islámico contemporáneo*. Número 7, Nueva época, 2013.
- Bulletin of the American Research Center in Egypt*. No. 202 (Summer 2013). American Research Center in Egypt, 2013.
- Bulletin of the School of Oriental and African Studies*. Vol. 76, No. 2, Cambridge University Press, 2013.
- Bulletin of the School of Oriental and African Studies*. Vol. 76, No. 3, Cambridge University Press, 2013.
- dimensions international: A Periodical of Saudi Aramco*. Spring 2013, Saudi Aramco, 2013.
- Journal of the American Research Center in Egypt*. Vol.48, 2012, American Research Center in Egypt.
- Perceptions: Journal of International Affairs*. Vol. XVIII, No. 1 (Spring 2013). The Center for Strategic Research of the Ministry of Foreign Affairs (SAM), Turkey, 2013.

事務局より

新しい年度が始まり、事務局の補佐も3年以上にわたって勤務された飯野りさんにかわり、あらたに千條真理子さんが担当することになりました。事務局の場所は変わりませんが、これから1年、どうぞよろしく願いいたします。

なお、3月から4月にかけては仕事の引き継ぎでばたばたし、ニューズレターの今号では「会員の異動」を掲載することができませんでした。会員の皆様にはお詫び申し上げますとともに、次号にまとめてお伝えいたしますので、ご理解いただきたく存じます。

(山口 昭彦)

編集後記

いよいよ、東京国際大学にて第30回記念年次大会が開催されます。大会実行委員会の宮治美江子委員長、塩尻和子事務局長をはじめとする関係者の方々には、大変なご協力、ご尽力をいただいております。この場を借りて、御礼申し上げますとともに、大会の成功を心より祈念しています。

(松本弘)

会費納入のお願い

本会は会費前納制をとっております。会費に未納がある方は、本号のニューズレターに郵便振替払込用紙が同封されておりますのでご利用ください。納入済の年度がお分かりにならない場合は、事務局まで気軽にお尋ねください。AJAMES に未送付分がある場合は、2013 年度以前の未納分会費の払込確認後お送りいたします。会費納入率は低い状態が続いており、学会事務局の運営にも支障を来しかねない状況です。是非ともご協力いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

日本中東学会ニューズレター 第135号

発行日 2014年4月21日

発行所 日本中東学会事務局

日本中東学会事務局

〒150-8938

東京都渋谷区広尾 4-3-1

聖心女子大学

山口昭彦研究室内

日本中東学会事務局

電話：03-3407-5685（直通）

電話・ファックス：03-3407-5613（史学研究室）

Eメール: james@james1985.org

<http://www.james1985.org>

郵便振替口座：00140-0-161096（日本中東学会）

銀行口座：三井住友銀行渋谷支店（普）5346808

（日本中東学会 代表 栗田 禎子）